

## にのみや学園小学校英語教育研修会

8月29日(火)、二宮町町民センターにて、にのみや学園小学校英語教育研修会を開催しました。直山木綿子さん(文部科学省初等中等教育局教育課程課視学官)にご講演いただきました。小学校の教員と中学校の英語科の教員、約60名が参加しました。

外国語の授業づくりについて、わたしたち教員が意識すべきこと、取り組むべき方向性を学ぶことができました。いくつか印象に残った言葉を紹介합니다。



### 「目的・場面・状況を適切に設定すれば、子どもの言葉がかわる」

子どもたちは、本気になれるシチュエーション、誰かに伝えたいくなる場面や状況があると、ふさわしい言葉を紡ぎだすために思考します。そして、先生や仲間からの助言を取り入れながら、子どもたちの英語表現(言葉)はどんどん変容していきます。その変容は、子どもたちの大きな成長です。子どもたちの英語力とこうした言語活動の相関性の高さは、データでも明らかになっています。子どもたちが自分事としてかかわっていきけるような言語活動を取り入れながら指導することを引き続き大事にしていきたいです。

### 「教員が子どもたちに身につけさせたい資質・能力を明確にし、ビジョンをもって指導する」

授業を展開していく上で、教員が子どもに身につけさせたい資質・能力を明確にし、ビジョンをもって指導していくことが重要です。小学校卒業までに、中学校卒業までに、それぞれどんな資質・能力を身につけさせたいのか、学園全体で改めて共通理解を図っていききたいです。教員が明確なビジョンを持っているからこそ、授業における教員の言葉がけも変わっていくと思います。

直山先生のお話から改めて「目的意識」「ビジョン」の重要性を感じました。これは、外国語に限ったことではありません。あらゆる教育活動において「何のために」という思考や育てたい資質・能力を踏まえた指導を大事にしていきたいです。

また、外国語の話ではありませんが、直山先生は、講演中に「**二宮町の教員は、ほんま仲がようて、雰囲気さえなあ(京都弁)**」とおっしゃっていました。他にも、「**一体感**」「**ワンチーム**」「**数十人で声が揃うことの素晴らしさ**」等、二宮町の教職員のチームワークの良さについて言及されていました。普段、二宮町内で働いていると、なかなかこうした良さに気づくことはできませんが、外部の人から見て客観的にそう見えるのであれば、大変喜ばしいことです(もちろん、リップサービスは含まれているとは思いますが)。学校は離れていますが、にのみや学園の教職員として、同じ方向を向いて、子どもたちの育ちを支えていくことを目指して様々な取り組みを進めてきていることの成果が表れているのかもしれませんが、二宮町の強みとして捉え、これからも小中一貫教育目標「**認め合い、高め合う、二宮の子**」の実現を目指して、5校で仲良く歩みを進めていきたいと考えています。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

